

2015年3月30日

JRC2015、開催迫る。(4月16日～19日、於:パシフィコ横浜)

日本医学放射線学会総会、日本放射線技術学会総会学術大会、日本医学物理学会学術大会、国際医用画像総合展(ITEM)

第74回日本医学放射線学会総会、第71回日本放射線技術学会総会学術大会、第109回日本医学物理学会学術大会の3学会ともに、4月16～19日の4日間、パシフィコ横浜の会議ホールで開催する。

3学会と国際医用画像総合展のメインテーマは、「Be Cool and Practical」。

JRC2015の合同企画は、特別講演として「予想される首都圏の震災と地震波トモグラフィーで探る巨大地震の姿」。合同シンポジウムは、「被ばく管理:医療被ばくの見える化」(日本における医療被ばく管理の取り組み他)、「放射線科治療におけるチームワークの重要性」(放射線腫瘍医の立場から/北海道大学における放射線治療と医学物理士/放射線治療専門クリニックにおけるチームワークの実態と効果/研究を臨床へつなげるチームワーク/がん放射線療法における看護師の役割)、「放射線医療における自動化(オートメーション)技術にどう向き合うか?」(計算機による医用画像理解を目的とした解剖学的構造物のモデリング/コンピュータ支援診断<CAD>システムの臨床展開/放射線治療分野における画像レジストレーション技術について)の3題で行われる。

また16日には、画像ワークステーションを用いたハンズオンによる診断法の実際を示した「CTコログラフィートレーニングコース」が開かれる。

日本医学放射線学会総会においては、特別講演は、「視覚の錯覚から画像処理へ」、「福島で起こっている本当のこと」の2題、シンポジウムは、「肝腫瘍に対する塞栓術の多様化ービーズ参入時代の治療戦略」、「放射線照射後の画像診断」、「食道癌の集学的治療戦略」、「画像診断の混沌ー到達点と将来展望」、「ロボット外科最前線:放射線科医が知っておくべきポイント」、「がん特異性蛋白を認識するイメージング技術とその治療への応用」、「多様化する悪性脳腫瘍治療戦略」、「造影剤のリスクマネジメント」、「Where Are You From? (由来臓器を考える)」の9題で行われる。

その他、教育講演、治療と診断に分かれた研修医セミナー、コンピュータによるポスター展示CyPosも国立大ホールマリンロビーで催されるほか、企業開催のランチオンセミナーでは、MRI・CT・PET・PACS・IVR等の最新動向をテーマに、31のセッションで行われる。

2015国際医用画像総合展(ITEM in JRC2015)は、4月17～19日の3日間、パシフィコ横浜展示ホールA(一部)・B・C・Dで開催される。

主催は、JRC(日本ラジオロジー協会)、運営は、JIRA(日本画像医療システム工業会)。後援は、厚生労働省、経済産業省、日本医師会、神奈川県医師会、横浜市医師会、日本医学会、日本医療機器産業連合会、横浜市。

展示内容は、画像診断装置、医用画像システム、周辺機器やアプリケーションを中心として、156社が出展する。

=新医療=

以上